山都町立潤徳小学校　学校だより

狭霧（さぎり）の朝

潤徳小HP　令和５年２月６日（月）　第５６号
QRｺｰﾄﾞ ←カラーで見られます！　校　長　池部　聖吾智（みわとも）

ノートからアートに
野村昭嘉・２６歳の脳内地図

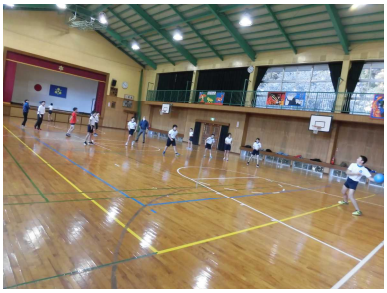
見出しは二月一日付佐賀新聞コラム「有明抄」からの引用で、昨日まで佐賀県立美術館で開催された展覧会のテーマです。野村さんは私と同世代で二六歳の時、工事現場の事故が原因で若くして亡くなられました。

彼は、「我が理想とするものは内なる輝きにある」と、浮かんだイメージが消えないうちに、作品の下描きや構想スケッチ、創作活動に対する思いや決意をノートに書き留めていたそうです。

「追究の鬼」の異名をもつ小学校教師の故・有田和正氏は「ノートは思考の作戦基地である」と言われていました。現在ＩＣＴ教育がさかんですが、私はノート指導も重要視しています。有田氏の言葉を借りれば、ノートは「思考を鍛える」ツールと言えます。十二月実施の県学力調査でも、全学年「思考力」の問題で課題が見られました。授業の指導改善に務めます。

一月往（い）ぬる　二月逃（に）げる　三月去（さ）る

標題は「１月から３月までの時期は、時間の流れが早く毎日があっという間に過ぎ去る」という意味です。３日（金）の放課後は、「体力向上アップタイム」の時間。体育館を観に行くと、５・６年生がドッジボールで汗を流していました。２／２の本校ＨＰブログにも５・６年生の遊ぶ様子をアップしたところでした。いずれの時も、子どもたちの姿を見ていて「あと２ヶ月弱で６年生も卒業か・・５年生、しっかり６年生の後を引き継ぐんだぞ！」というようなことを心の中でつぶやいていました。６年生には、残された小学校生活の１日１日を大切に過ごしてほしいと思います。



潤徳抄

四日から私の住む益城町で図書館リユースフェアが始まった。現在、町図書館は特別整理期間であり、その際に出てきた保存期間が終了した本などを無料で譲るというものである▼初日の開館と同時に三〇人弱が集まっていた。年代層は、私より年上が多く、あとは私と同世代くらいの人だった。こういうところからも「本離れ」の一端が垣間見える気がした▼調べものもネットで簡単に検索できる時代ではある。しかし、本の持つ価値は大きい。実家が本屋で本を読みながら店番をして育った作家の林真理子さんは言う。「ネットではかなえられないリアル。それを本がかなえることがきっと出来るはずだ」▼今回、私は十四冊の本をゲットした。フェアは一週間開催されるので、もう一回は来たい。今後も新たな古本の追加があるはずだからだ。とはいえ最近は、蔵書本は増える一方で私自身こそ本の特別整理期間が必要だ（苦笑）